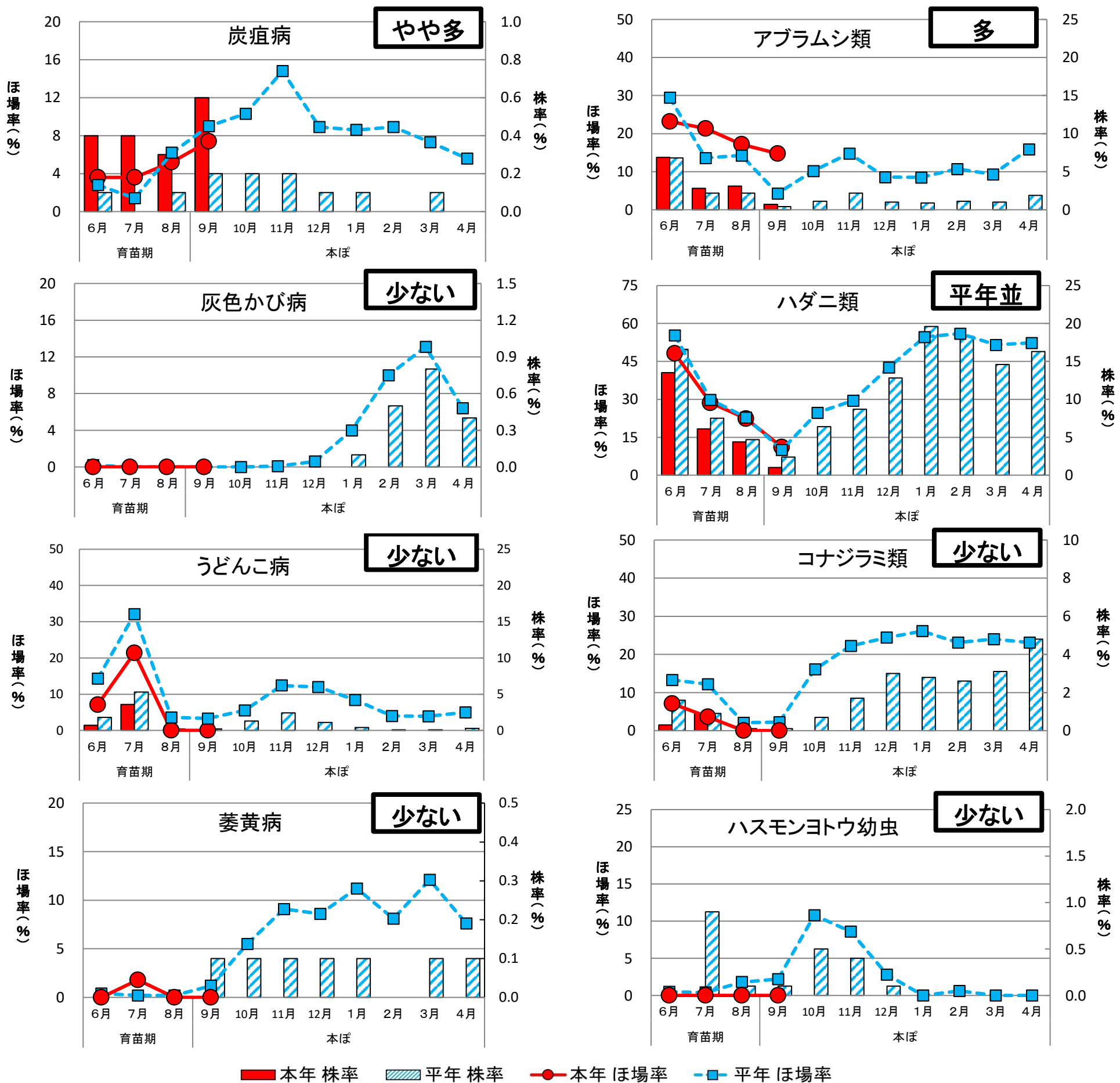


# いちご病害虫情報第4号（9月）

令和6（2024）年9月20日  
栃木県農業総合研究センター  
環境技術指導部

## ■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：54 箇所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

## ■ 今月の防除ポイント

### ー ハスモンヨトウの対策 ー

ほ場をよく観察し、発生初期の段階で防除を行いましょう。

- 1 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。施設のパイプ、ネット等の資材にも産卵することもあるので注意して観察する。
- 2 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。
- 3 施設開口部には防虫ネットを展張する。
- 4 ほ場周辺の雑草は発生源になるため、雑草管理を徹底する。

## ■ 今月のトピックス アザミウマ類 いちごに寄生するアザミウマ類

アザミウマ類はいちご栽培において重要な害虫となっています。県内いちご栽培ほ場における主要種はヒラズハナアザミウマ（写真1）で、ハナアザミウマ（写真2）やミカンキイロアザミウマ（写真3）も見られます。体長はいずれの種も1～2mmで、現場での種の識別は困難です。

アザミウマ類の発生を確認するには、ルーペでの花の観察の他、白い紙等の上で花を軽く叩く方法があります。アザミウマ類が発生していれば、花を叩くと細長く褐色または淡黄色の小さな虫が紙の上に落ち、観察することができます。



写真1 ヒラズハナアザミウマ成虫



写真2 ハナアザミウマ成虫



写真3 ミカンキイロアザミウマ成虫

### アザミウマ類の生態と被害

アザミウマ類は主に花に寄生し、成虫は主に花粉を、幼虫は花床の表面等を食害します（写真4、5）。幼虫に加害されると果実肥大後にそう果（種に見える部分）の周囲を残して表面が褐変し、商品価値が低下します（写真5）。



写真4 花上の成虫(赤丸内)



写真5 果実の被害

### アザミウマ類の生態と防除

野外のアザミウマ類は10月頃まで活発に動き回ります。そのため、10月中旬までに開花が進んでいるほ場では、アザミウマ類の飛び込みが多くなる傾向にあります。ほ場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底しましょう。

施設内で観察した花の1割以上にアザミウマ類が発見された場合、速やかな防除が必要です。ほ場をよく見回り、発生初期のうちに防除しましょう。天敵を利用するときは薬剤の選択に留意しましょう。

秋に被害が発生したハウスでは、2月頃からの被害発生に特に注意しましょう。

[防除のポイントNo.19](#) を当センターHPに掲載中です。

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課 (Tel 028-665-1244) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX(旧ツイッター)「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。

